



vol.34
2022.10

美三 びさん

広島県看護協会三原・尾道支部会員数

保健師	31人(入会率22%)
助産師	41人(入会率76%)
看護師	1,750人(入会率56%)
准看護師	132人(入会率10%)
合計	1,954人(入会率43%)

支部担当理事挨拶



川村 美香

[尾道市立市民病院]

平素より広島県看護協会及び三原・尾道支部の活動にご理解とご協力いただきありがとうございます。今年度より支部担当理事を務めさせていただきます。尾道市立市民病院の川村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

2020年来のコロナ禍において、医療従事者として地域医療を支えるためさまざまな

役割を担い実践してきました。しかし終息の兆しが見えない中、苦悩や不安は尽きません。このようなときこそ会員同士、力をあわせ乗り越えていくことが大切であると思います。支部の活動は、様々な制限を設けながらではありますが、会員同士の交流の場として継続して参りたいと考えております。

また支部担当理事として、会員の声をしっかり広島県看護協会へ届ける橋渡し役として頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

支部長挨拶



柿本 文重

[JA尾道総合病院]

昨年度に引き続き支部長を務めさせていただいております。平素より当支部活動の運営にご支援ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、看護研究発表会・社経研修会・救急蘇生研修会を中止しました。今年度も

第7波と言われる感染拡大となり、支部活動が思うようにできない状況が続いております。支部ではWebでの研修会開催の第1歩として役員会をWebで開催するなど、活動継続のための準備をしています。

今後も、地域、施設、多職種間の連携の場となり、会員の皆さまのお力になれるよう努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

三原・尾道支部 活動報告

進路相談会に参加して

因島総合病院 田中 美由紀

昨年、広島県看護協会 三原・尾道支部の役員になり、教育担当の初めての研修として、6月26日に高校生を対象に行われた進路相談会に参加、お手伝いをさせていただきました。初めてのこともあり、どのように進められていくのか分からず、他の役員の方に確認をさせてもらいながら手伝わせていただきました。場所は「しまなみ交流館」、新型コロナウイルス感染予防対策にも留意し、3密を回避するために、収容人数の制限を設けて行われました。

参加者は、高校生20名、保護者5名、高校教員1名でした。内容としては、「看護教育の説



明、看護体験、看護専門学校、看護大学から来られている進路相談員への質疑応答」をしました。体験発表は、興生総合病院とJA尾道総合病院の看護師、県立広島大学の学生、各一人ずつが行いました。県立大学の学生に関しては、大学の感染予防対策活動規定により、会場へ来ることが出来ず、事前にパワーポイントを準備してもらい、当日音声と画像を流させていただきました。今後の進路の一つとして、看護へ興味を持ち、看護について知りたいと思って参加されているということもあり、皆がとても真剣に話を聞いている姿はとても印象的でした。発表された方の話を聞かせていただき、改めて看護師という仕事がやりがいのあるものだ実感しました。高校生にとってもより良いものになり一人でも多くの看護師が誕生することを願うばかりです。

関連職種地域連携研修会 「感染症対策について」

三原赤十字病院 田口 真梨子

新型コロナウイルス感染症が流行し、3年近く経ちました。このウイルスは現在の私たちの生活を一変させ、普段の生活、病院、施設において今まで普通に出来ていたことができなくなりました。看護師は、普段ならできる多くのケアや援助が、感染予防の為に十分にできないことのジレンマを抱えながら看護をしているのではないのでしょうか。

今回、研修で少しでも満足のいくケアや看護ができることを願って研修に参加しました。医療現場での感染リスクが多い場面は、飛沫感染、接触感染、空気感染があります。今まで私たちはその都度どのような対策が必要かを考え感染予防してきました。新型コロナウイルス感染症患者との接触の際に、自分が濃厚接触者にならないかなどの不安もありました。しかし適切な感染防護具

を着用していたかどうかを学ぶことができ、今では安心して接することができています。新型コロナウイルス感染症への正しい知識を持つことが不安や恐れを生まないことであるとも学びました。

「自分や大切な人を守るために、正しい知識を持つこと。」その言葉を忘れることなく、日々の看護、感染対策に従事していけたらと思っています。



「摂食嚥下障害のある患者のケア」に参加して

医療法人 清幸会 三原城町病院 金本 卓也

令和3年11月6日、「摂食嚥下障害のある患者のケアについて」摂食嚥下障害看護認定看護師の大河智恵美講師の研修会に参加しました。講義の中で、五感に働きかけることで嚥下のメカニズムを利用するという話が印象に残っています。

食欲とは人間の三大欲求であり「食べる楽しみ」はとても大切なものです。「視覚」で食事を見せ、「聴覚」で何を食べるか説明し、「触覚」でお皿や箸を持たせ口唇や口腔内・舌で感じ、「嗅覚」でにおいを嗅いでもらい、「味



覚」で味わってもらおう。五感を意識してアプローチすることは患者さんの食欲を上げ、摂食嚥下にとってもいい影響を与えます。

患者さんの中には当たり前でできていたことができなくなった方もいます。食事介助が必要な患者さんも五感を刺激し、「食事は楽しいもの」という意識や記憶を呼び起こし、患者さんが食欲を取り戻せるような介助が大切です。そのために環境を整え食事を口に運ぶ動作を患者さんと一緒に行うことが大切だと感じました。

実際に病棟に帰って、自力摂取が難しかった患者さんにスプーンを握ってもらい食事介助をしました。すると、少しずつではありますが患者さん自身で口に運ぼうとする動作がみられました。皆さんも是非意識してみてください。

大河智恵美先生ご講義ありがとうございました。

交流事業

「転倒リスクにつながる運動機能低下の評価」に参加して

尾道市立市民病院
中川 千穂

私は整形外科病棟に勤務しており、交流事業「転倒リスクにつながる運動機能低下の評価」に大変興味をもち参加しました。転倒による骨折で緊急入院する高齢者が多く、健康なうちから一人一人が意識してフレイル予防に取り組む必要があると思っていました。

フレイルの悪循環を良循環に変える意識をもつことが重要と学びました。食欲、摂取量の低下による低栄養・体重減少は、ダイエットをしていないのに体重が2~3kg減少してしまうことが私には心当たりがありました。それは自分の母親の事で、5年程前実家に帰省すると激痩せした母親の姿にびっくりしました。私にとっての母親は、「また体重が増えた。」と、毎日体重計に乗り一喜一憂していた姿だったので、とてもショックでした。激痩せを周りからもかなり心配され、病院を受診しましたが異常はなく、服のサイズもMからSに変わってしまいました。フレイル予防に取り組むべき3本柱は「口腔・栄養・運動」に加えて「社会参加」が必要という事でした。定期的に歯科

受診をし、趣味はグランドゴルフで、普段から畑仕事をしている母にとっての問題は栄養でした。摂取量は少なくても意識して高タンパク質を摂取し、バランスの良い食事を心がけているようです。健康寿命を目指して頑張っ元気でいてほしいと願います。この研修をきっかけに、自分自身も片足立ち60秒、スクワット、腹筋運動を始めました。入院中の患者さんにも、簡単に始められる片足立ち訓練を広めて行きたいと考えています。楽しい時間を有難うございました。



令和4年度 事業計画

研修事業

- 支部総会後研修／4月9日
琉球民謡 演奏「聴いて・踊って」リフレッシュ
- 社会経済福祉研修会／8月20日
「アンガーマネジメント」※
- 救急蘇生研修会／9月10日
- 組織強化研修会／11月5日
「ベップトーク」

研究事業

- 看護研究発表会／令和5年3月4日
令和3・4年度の合同看護研究発表会

看護広報事業

- 進路相談会／6月25日
- 支部だより発行／10月31日

関連職種地域連携事業

- 関連職種地域連携研修会／10月1日
「対人関係能力を養う」

交流事業

- 造花アレンジメント／12月3日

地域看護事業

まちの保健室

- イベント型 ● 尾道みなとまつり
- 三原市民保健福祉まつり
- おのみち市民健康まつり
- 常設型 ● フジグラン三原
- 尾道市総合福祉センター
- 甲山ショッピングモールパオ

※の事業及びまちの保健室につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策により中止となりました。

令和4年度 役員紹介

役員集合



役員名	氏名	所属
支部担当理事	川村 美香	尾道市立市民病院
支部長	柿本 文重	JA尾道総合病院
副支部長	木田千津子	三原市医師会病院
副支部長	森 深雪	村上記念病院
幹事(総務)	原 照美	三原赤十字病院
幹事(財務)	吉井 直美	三原城町病院
幹事(社経)	新田富久子	尾道市立市民病院
幹事(社経)	矢山 智世	公立世羅中央病院
幹事(社経)	長谷 茂	山田記念病院
幹事(教育)	田中美由紀	因島総合病院
幹事(教育)	下川さおり	尾道市医師会看護専門学校

編集後記

会員の皆様のご協力のもと、広報誌「美三34号」を無事に発行することができました。昨年に続き、新型コロナウイルス感染症拡大の状況下、研修会や交流事業等どうしたら計画通りに開催出来るか苦慮しながらの活動になっています。事業計画に参加して頂き、皆様とお会いし共に研修等に安心して参加できる場を提供できるよう環境を整えて行きたいと考えています。また医療従事者対象に第4回目のワクチン接種が進み出しました。ワクチン接種を施行する立場や受ける立場にもなりますが、コロナ感染症と奮闘しながら頑張っていきたいと思っております。今後ともよろしく願い致します。

長谷 茂・矢山 智世・新田 富久子

[発行日] 令和4年10月31日発行

[発行所] 公益社団法人広島県看護協会
三原・尾道支部事務所
〒723-0014 三原市城町3-1-1-210号
TEL/FAX:0848-64-1616
E-mail: s-mihara@nurse-hiroshima.or.jp

[発行責任者] 柿本 文重